

こればかりおのが心にさからはすすな  
 ほなるかと戀をさげすむ

初秋の風に衣の翻かる時わがさびしさの  
 泣かれぬるかな

まさるべし二人に契るくるしさも一人  
 を知らぬあちきなさより

春の夜の都大路に身を捨てんかどはか  
 しにも奪とられはてんと

われ早く人に及ばぬ身と知りてうしろ  
に低く石を拾へる

おのれをば欺くこともあなあはれ久し  
くなれば驚かぬかな

ひたすらに身を思ふことあぢきなし人  
のいさむる戀もしてまし

世のいまだととはぬ間に生れ来て少  
女は狭き家におかるる

わが袖の涙にぬれて漸くに少女のごと  
き心地するかな

あなもののう長き袂もわが嫌ふ男の衣の  
手ざはりのする

一枚の瓦のおちて裂けたるもふともの  
がなしわが家のこと

何やらにたぶらかされてあるごとし風  
ばかり吹く薄月夜かな

ピアノノ弾くなほなぐさますわれをしも  
 ピアノのごとく人の弾かぬか

わが名をば呼ぶ人はなしたらちねの母  
 より外に呼ぶ人はなし

なで佛あまたの人になでられて眞黒に  
 光り打もだすかな

ある時はありのすさびに拾ひたる落葉  
 にすらも熱き息吹く

端近く出でたる時にわれぬすむ人しも  
あらば美しと見む

わが上に明日をたのむは新しき男を待  
つに似たるものかな

わが道はいとおもしろく去りがたき處  
に到り歩みとどめん

わがごとく泣きからしたる若き人ひと  
りを得まし明日の行手に

夕立の雨はめでたしひと時に泣きつく  
すことたやすげにして

來む世には小き花と生まれましろすき幸  
だに身にあまるべく

王ありて國なき如し少女にてひとりあ  
るよりわびしきはなし

わが心きたなき人に手を下しいたはる  
までにおとろへしかな

墨染に櫻の花の咲く春か少女子われの  
 瞳開かず (以下眼を病みて)

世をなべて見盡したりとわが瞳しづか  
 に閉づる今ならなくに

あなよしと心に叫ぶひとりをもただに  
 見まほし眼の盲ひぬ前

おのれのみあはれに見えて世のものを  
 よしと見るまでおとろへし眼よ

まばゆしとおぼゆるものも仰がぬには  
やも瞳の疲れたるかな

うつくしく生きんとすらん大方は瞳眠  
りて晝も夢見る

集歌  
ふるへる花終り



大正二年五月廿九日印刷  
大正二年四月廿二日發行

歌集 ふるへる花 (定價金六十錢)

著作權所有

著者

原田 琴子

發行者

東京市淺草區下平右衛門町九番地  
岡村 庄兵衛

印刷者

東京市小石川區久堅町百〇八番地  
水谷 景長

發行所

東京市淺草區下平右衛門町九番地  
岡村書店  
(電話下谷四二〇四番)  
(振替東京一九〇六五番)

岡村書店發行  
新刊圖書

新しき女の裏面

樋口麗陽氏著

現今社會の大問題として喧噪せられつゝある  
「所謂新しき女」の裏面を最も眞面目に最も露骨  
に解剖し扶摘し且つ諸先輩の之に對する意見  
解釋を批評論駁し銳利の筆法を以て火を發す  
るが如き熱烈の語を驅り來つて茲に現はれり。

四六版美本四頁  
定價五十五錢  
送費六錢

岡村書店發行  
 文藝書類

北國の鴉よ

小岡村川未明氏著  
 岡村芳雨氏裝幀

人間味を離れた一種の幽寂の趣味を樂しみ來れる著者は近來更に新境地に突入して現實味に富んだる活文字を捻出來た『燕。悲愁。國境の夜。曉の色等の小品を初め短篇小説や文學上の種々の感想等三十二篇の近作を集めたる也。

菊半價  
 截金十六錢  
 形洋裝  
 送費  
 三九二  
 頁六錢

新舊短歌募集  
 八月切

大正短歌一萬集

現代歌壇の新コレド

弊店今回「大正短歌一萬集」の題のもとに、新、舊歌人の歌を廣く募集し、諸先生の選を得、以て一冊の書として本年十月發行致すべく候。

投稿の規程

- (一) 何人も自由に投稿し得らる。(二) 歌は五首限とす。(三) 投稿用紙は葉書若しくは同形の用紙。(四) 用紙の頭首には、「大正短歌一萬集原稿」と記し。其の上に新、舊の別ちを朱記すべし。住所姓名、並に號は其の下に明記すべし。(五) 宛名は東京市淺草區柳橋通り岡村書店編輯局のこと。(六) 没書の憂なし。(切八月末日)

岡村書店發行

文藝書類

歌集  
悲しき愛

富齋 田藤 碎與 花里 氏裝 著

年少新進の歌人として知られたる著者の第一歌集にして何れも青玉の如き純なる感情を披瀝して大空の光を満身にあび喜び歌ふ氏の姿がある巻頭に新進音楽家の手に成る曲譜を附し何れも青年詩歌人の憂讀すべき珍書である。

菊半 定價 七金  
截形 七金  
美裝 五錢  
送費 二七  
七金  
頁七 錢六

岡村書店發行

文藝書類

情熱の女

長小 會寺 我白 部衣 菊子 子裝 著

本書に現はれたる女性に周圍の人々を熱愛する爲に生れて來たものゝ様である弱いのが女の代表である時代は既に過ぎ去つたとして新しい女は冷たい者と思はれてゐるが昔より女の胸に燃えてゐる情熱は此著者の自由である。

菊半 定價 七金  
截形 十五錢  
洋裝 三六  
送費 二六  
頁二 錢六

岡村書店發行

文藝書類

平家の人々

高坂須本 梅次 溪郎 氏裝 著

著者が一年間の勞作の收穫にして美しきロマ  
ンスに憧憬るゝ情熱を透ふして「平家の人」々を  
見たる詩的情感の高潮を發揮したるものにし  
て近代人の眼に映じたる平家の人々は茲に渾  
然たる一個の藝術品として新味を帯びて現る。

菊形洋裝 三二二頁 定價六十五錢 送費二錢 八錢

岡村書店發行

文藝書類

紅噴隨筆

兒玉花外氏著

本書は兒玉花外氏の小品文集なり收むる處約  
五十篇一篇として氏の生命の充實せざるもの  
なく讀みて泣くべきあり縋きて笑ひ崩るべき  
あり怒るべきあり痛むべきあり世の文を學ば  
んとする人々が此の書を精讀すべきや論なし。

菊形半截 二八九頁 定價十四錢 送費六錢

岡村書店發行

文藝書類

散文詩集七十二篇

習作

福永挽歌氏著

若い心の輝きと香とを盛つた詩的散文詩二十

七編を輯めたものである著者の散文詩は其主

張其内容に於て在來のそれとは行方を異にし

エキゾチックで獨創的で藝術的句の高い作品で

ある、讀者は此新しき藝術品を好愛せられよ。

菊半截形二二七頁  
定價金十四錢 送費六錢



274

108





終